夢描く場所

千葉市立高等特別支援学校
学校だより　第7号
令和５年11月30日

「力を入れて力まず」頑張りましょう！

10月下旬から2・3年生が現場実習に、11月中旬に1年生のグループ実習が行われました。先日の実習報告会では、それぞれの取り組みを緊張した面持ちで発表してくれました。日頃からの挨拶や態度を褒められた生徒もいますし、確認や報告でダメだしされた生徒もいたようです。どちらも今現在の自分たちの実力です。それを真摯に受け止め、自信をもったり反省したりして次につなげていきましょう。また、実際は実習報告会で発表してくれた内容の何十倍、何百倍のことを感じて帰ってきたことと思います。直接、指導や助言されたことだけでなく、自分が感じたことをしっかりと振り返り、新たな目標を立てたり決意として表したりして行動できるようにしていきましょう。

いよいよ明日、千葉県特別支援学校　高等部駅伝大会が千葉県総合スポーツセンターで開催されます。実習時期の関係で1年生は練習期間が取れず、残念ながら来年度以降に頑張ってもらうこととしました。2・3年生にとっても十分な練習ができたわけではありませんが、短期集中で練習に取り組み、着実にタイムも伸びてきております。駅伝大会が近づくと、以前 PTA 広報誌にも書かせていただいた増田明美さんの言葉が思い出されます。「駅伝っていうのは、待ってくれる人がいるから頑張れるんですよね。一人では頑張れなくても次につなげようとするから頑張れるんです。」というものです。その言葉通り、昨年度の様子を思い出しても、待っている仲間のために次につなげようと頑張る姿は本当に格好いいし感動が蘇ってきます。ただ、実業団駅伝や大学駅伝の TV 中継などで、脱水症状を起こし何度も転びフラフラになりながら襷をつなぐ姿を見ると、ひやひやドキドキ心配でなりません。最後まで諦めずに頑張ることはもちろん大事だと思います。でも、頑張りすぎて怪我をしてしまっては元も子もありません。自分の今の力をしっかりと把握することが本当に大事だと思います。自分の力を知った上で、さらに成長するために少しずつ目標を上げていくこと。一気に限界を超えて体も心も壊れてしまわないように、これが今の最大限の力というのを発揮できることを目指していければと思います。色々と矛盾した言い回しになってしまいますが、明日の駅伝大会、「頑張ってほしいけど、無理はしないで…」「ちょっとの無理はしてほしいけど、限界は越えないで…」「限界を超えちゃまずいけど、頑張ってほしい…」という気持ちで応援しています。

駅伝大会はもちろんですが、皆さんの活動や取り組みの後ろには多くの方々の応援があります。その応援をしっかりと感じて、励みにしたり力に変えたりしながら頑張ってください。時にはその応援がプレッシャーになることもあるかもしれませんが、自分が行ってきたことを信じて、今できる精いっぱいの姿を見せれば良い、「力を入れて力まず（ちからをいれてリキまず）」という思いでやっていきましょう！

校長　三宅 健二朗